

モモせん孔細菌病の発生状況と防除について

～北信農業農村支援センターからの情報提供～

1. 春型枝病斑の発生状況（R2.4.22 現在）

- ・ 開花始めから春型枝病斑の発生が確認されており、昨年よりも発生が早く発生量も多い。
- ・ 現在発生している春型枝病斑のうち 8 割は枝の先端、2 割が枝の中間部分に発生している。
- ・ 現在の春型枝病斑の発生率は 2～7%程度（100 本の枝の内 2～7 本で発生）。
発生率が 10%程度になると防除所より注意報が出るレベル。

2. 春型枝病斑のせん除

- ・ 春型枝病斑を探しやすい今（枝の先端に発生）、できるだけ早く春型枝病斑をせん除する。
- ・ 病斑の確認された位置から 3～4 芽健全な芽を含めてせん除する。
- ・ 枯れ枝も含め、疑わしい枝は全てせん除する。

3. 薬剤散布について

- ・ 気象状況から開花期間が長期化することが予想されるため、次回の薬剤防除は「落花直後」ではなく、前回の防除から 2 週間以内に実施する。



写真（左：健全 右：春型枝病斑）

***春型枝病斑は、表皮を削ると木質部が「アメ色」に変色しています。**



写真：春型枝病斑（枝先端の変色）